

# 「流産に至った症例における胎児染色体異常の有無と

## 臨床像の違いについての検討」

### 研究実施のお知らせ

#### 1. 研究の対象となる方

2009年1月1日から2023年12月31日に、当院で流産と診断され子宮内容除去術を行い、絨毛染色体検査を実施された方

#### 2. 研究期間

研究機関の長の許可日 ~ 2025年12月31日

#### 3. 試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

研究機関の長の許可日以降

#### 4. 研究の目的

流産は臨牀的に妊娠の約15%で発生します。多くが胎児の染色体異常が原因であることがわかっています。しかし、染色体異常が原因であったか知るためには、流産した胎盤絨毛を絨毛染色体検査という検査に提出し調べる必要があります。この際には、手術が必要で、患者さんの身体的負担や検査による経済的負担が生じます。染色体異常の有無で、流産に至るまでの経過に差があるならば、その臨床情報をもとに今回の妊娠の振り返りや次回以降の妊娠のアドバイスができると考えています。

そこで今回、当院で流産と診断され絨毛染色体検査を行った方にご協力いただき、染色体異常があった方となかった方で、流産に至るまでの妊娠経過に差がなかったかについての調査を行いたいと考えています。妊娠経過に差があるならば、患者さんに負担をかけることなく流産の原因を推定することができると思います。

#### 5. 研究の方法

当院で流産の原因検索のために絨毛染色体検査を行なった方の診療録を振り返り、統計学的な検討を行います。

#### 6. 研究に用いる試料・情報の項目

〈利用する情報・項目〉

## 情報:診療録情報

なお、この研究に必要な臨床情報は、すべて診療録より取り出しますので、改めて患者さんから情報を得ることはありません。

### 7. 外部への試料・情報の提供

該当なし

### 8. 研究組織

【研究責任者】

山梨大学 産婦人科学講座 吉野修

### 9. 試料・情報の管理について責任を有する者

山梨大学

### 10. 個人情報の取扱いについて

研究者等は、研究対象者の個人情報保護について、適用される法令、条例を遵守します。また、研究対象者の個人情報およびプライバシー保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を漏らすことはありません。

### 11. 利益相反について

外部との経済的な利益関係等によって、公的研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、又は損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態を「利益相反」と言います。

この研究に関して開示すべき利益相反関係はありません。

### 12. お問い合わせ等について

本研究に関してご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望により、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書や関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、本研究に試料・情報が用いられることについてご了承いただけない場合は研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

担当者の所属・氏名：山梨大学 産婦人科学講座 吉原達哉

住所：〒408-3898 山梨県中央市下河東 1110

メールアドレス：nyarometatsuyafanta@gmail.com

FAX：055-273-1113